

# 「どうせ変わらぬ」冷めた商大生

## 「候補者分からない」「暮らしに満足」

衆院選が19日に公示され、31日投票期に向けた選挙戦がスタートした。道4区（後志管内、札幌市手稲区、西区の一部）でも与野党の候補者が一騎打ちの戦いを繰り広げる中、今どきの小樽商科大生は有権者として、若者としてどう見られているのか。公示前後に声を集めると「候補の名前も顔も分からない」と冷めた声が目立つ中、政党や候補者の訴えを真剣に見極めようとする姿もあった。

（宮本夕梨華、平田康人）

### 政策見極めようとする人も

「正直、この小選挙区で立候補している人の顔も名前も分からない」。若手県出身で小樽市在住の2年女子（19）は淡々と話した。新型コロナウイルス禍でアルバイト先の飲食店が休業となり生活に影響した。だが「要望を言ったところでどうせ反映されない」と諦め顔。北見市出身で、小樽市で暮らす4年女子（21）は「就職活動が忙し〜、あまり考えてなかった。どの党が勝っても、どうせ変わらぬ」と思っている。期待も特にならぬと冷めた表情を話した。



「若者が何か意見しても年上では取り合ってもらえない。今の暮らしにも満足している。不満は多少あっても、そのまま今の日本を

変えてほしいとも思っていない」。函館市出身で、小樽市で暮らす3年の若狭里奈さん（21）は自身を含めた同世代の政治への冷めた視線を代弁する。自らは公務員を目指し、専門学校に通う日々。多忙な毎日で「周囲で政治や選挙の話にならないし、興味がない友達も多い」と話す。

「選挙活動が忙し〜、あまり考えてなかった。どの党が勝っても、どうせ変わらぬ」と思っている。期待も特にならぬと冷めた表情を話した。

賃金の地域格差是正や新型コロナウイルス対策の充実などを求める声もあった。札幌市中央区から通う2年女子（22）は「選挙金負担の軽減など若者への政策を充実させてくれる候補に投票したい」。奥尻島出身で同大生寮の寮長を務める3年の佐藤真さん（21）は「僕らが『どうしてほしい』と意見を言うことも大事。文句を言うだけでは無責任で、しっかりと公約を見極めたい」と話した。